読者の声

千葉県知事選挙

千葉県知事選挙が3月21日に実施される関まさしは自民党県議会議員と熊谷俊人立憲民主党の千葉市長の争いになる。しかし自民党は一本化できず、千葉選出の自民石井準一参院議員は熊谷氏の応援を表明し、森喜朗元首相も自民党千葉県連が推進する習志野市出身の金メダリストの鈴木大地スポーツ長官の立候補を阻止した。自民党本部も立憲民主党を応援する人物がいる。これは国民を貧乏にしたい考えが同じだからである。外国には国民を裕福にする保守政党があるが日本には全くない。京都選出の安藤宏、西田昌司議員は真の保守政治家であるが、完全に無視されている。原因はテレビ新聞も日本国民を貧乏にする考えは報道しない。大学も真実が探究できず日本は閉塞状態である。投票率が70%を切れば、民主主義は成立しない。熊谷候補は2回も否決された大阪都構想と同一の県市一体化政策がある。二重行政効率化は市の図書館、県の図書館の一つを廃止することであり、職員の半数は首になりデフレになる。国や地方公共団体は借金して財政を拡大し公共施設を守るのが仕事である。債権大国で外国に貸していて、外国から借りて社会、活字を、だから新聞を読むことをしなくった社会に入ろうとしている。現金を受領には窓口へ行かねばならない。

僧しみの坦場に赤く燃えるくろがねの剣を打ち鍛えよ、これは労働歌、労働運動の歌、階級闘争の歌、今は階級なき時代かのように思われている。階級搾取厳然として存在している。ただ、今は労働運動なき時代、階級闘争なき時代だ。非正規社員は増えている。ワーキングプアーが増えている。搾取される労働者、羽がも毟取られた鳥のごとく、動けない労働者、闘えない労働者、貧困と貧困化が進む。社会の下部構造・経済が衰退傾向で、上部構造の思想、政治が衰退、没落している。1960年当時の労働運動は単なる賃上げ闘争ではなく、階級闘争を念頭に置いた運動であった。社会の発展と関係がある。社会の下部構造である経済と上部構造である人々の意識、大衆には密接な関係がある。人々は活力に疲れ、疲弊し、感覚・生活感覚が鈍り、感動しなくなった。電話一本で、ボタン一つでなんでも用が足りる世の中だが、便利の中で精神はつかれ、疲弊し、混迷する。情報過剰時代だが、先の見えない世の中になっている。それが人々を疲れさせ、混乱、混沌に陥れている。今、世の中は、どんな時代でどんな方向に進んでいるのか新聞もそれを伝えていない。人々は平静のようでいらだっている。自分がいらだっていることがわからないほど愚鈍になっている。

今、世界は衰退、没落に向かっており、日米欧資本主義国が衰退傾向を加速しており、それに代わって中国を中心とするブリックスが興隆、発展している。資本主義国はいずれも消費力が減退し、経済拡大再生産の時代が終わり、経済成長停止しており、黄昏が迫っている。沈みゆく太陽を押しとどめることができないようにたそがれ行く資本主義国を押しとどめることはできない。成長、発展から衰退没落に向かう法則であり、歴史の発展法則である。社会主義が資本主義にとって代わるということである。

わが国は、原始共同体から、封建主義、そして明治維新という無血革命によって資本主義主会となって一0年余、今、その資本主義社会に入ろうとしている。仕事もメール、支払いもメール、そんな時代に入ろうとしている。

しかし、即物労働ではなく、テレワークだといったって、おのずと限界はある、電話で麦を踏むことは出来ない。電話で豆腐を作ることはできない。電話で農業はできない。工業にも電話で出来ることにはおのずと限界がある。産業と人間とは切り離すことが出来ない。産業は、物の生産、運搬、配布という手段で行われる。電話一本でエ場から食卓へというわけにはいかない。畑の作物が電話一本で食卓へというわけに入ろうとしている。野菜は八百屋からお電話されておかずとなる。肉や魚も同じだ。人間の労働なしに生活は成り立たない。電話一本で物は届く、通販、配達という労働が介在している。電話一本でお金のやり取りは出来るが、現金資本論は、資本の生産過程、商品と貨幣から始まるが、新資本論は人間、感動、労働から始まる。人々は、なんで感動しなくなったのか、なんでいらだっているのか、そこには社会の発展と関係がある。社会の下部構造である経済と上部構造である人々の意識、大衆には密接な関係がある。人々は活力に疲れ、疲弊し、感覚・生活感覚が鈍り、感動しなくなった。電話一本で、ボタン一つでなんでも用が足りる世の中だが、便利の中で精神はつかれ、疲弊し、混迷する。情報過剰時代だが、先の見えない世の中になっている。それが人々を疲れさせ、混乱、混沌に陥れている。今、世の中は、どんな時代でどんな方向に進んでいるのか新聞もそれを伝えていない。人々は平静のようでいらだっている。自分がいらだっていることがわからないほど愚鈍になっている。

今、世界は衰退、没落に向かっており、日米欧資本主義国が衰退傾向を加速しており、それに代わって中国を中心とするブリックスが興隆、発展している。資本主義国はいずれも消費力が減退し、経済拡大再生産の時代が終わり、経済成長停止しており、黄昏が迫っている。沈みゆく太陽を押しとどめることができないようにたそがれ行く資本主義国を押しとどめることはできない。成長、発展から衰退没落に向かう法則であり、歴史の発展法則である。社会主義が資本主義にとって代わるということである。

わが国は、原始共同体から、封建主義、そして明治維新という無血革命によって資本主義主会となって一0年余、今、その資本主義社会に入ろうとしている。仕事もメール、支払いもメール、そんな時代に入ろうとしている。

しかし、即物労働ではなく、テレワークだといったって、おのずと限界はある、電話で麦を踏むことは出来ない。電話で豆腐を作ることはできない。電話で農業はできない。工業にも電話で出来ることにはおのずと限界がある。産業と人間とは切り離すことが出来ない。産業は、物の生産、運搬、配布という手段で行われる。電話一本で工